

## 社 報



## やっぱり…腕を磨く



## 型枠がパンク

先日ニュースでやっていましたが、静岡の高層マンションで22階から作業員が2名墜落し、一人が亡くなるという惨事が発生しました。調べてみると、どうやら、エレベーターピット内の型枠がパンクし、ピット内の足場にコンクリが流失、それを片付けに行った、作業員が、足場もコンクリも一緒に下層のピット内足場を次々と巻き込みながら墜落した模様です。

型枠のパンクが原因で、他職の死亡災害が発生することもあるのです。私達も気をつけねばなりません。

先日、ある現場の安全大会に参加する機会がありました。そこで安全訓話を言うことになりましたので、その時の内容を思い出しながら書いてみます。

とは言っても、今回の表題「腕を磨く」について書くのは、もう3回めになります。繰り返しの繰り返しになりますが、大切なことは何度言っても良いものとして下さい。

職人と言えば、まず思い出されるのは伝統工芸の職人さんでしょうか。たぶん、建設業以外の一般の方は、輪島塗とかそういう伝統工芸の職人を思い受けべるのでしょう。こうした職人さんは、若くから親方について修行を重ねて、ついに立派に自分の手で作品を売るというレベルに達するのだと思います。まさに、誰にも真似のできない職人技を持っていると思います。

しかし、建設職人だって負けてはいません。誰にも真似のできない職人技を持っている人は大勢います。建設業では作品を作って売るといふわけにはいきませんが、モノづくりのために、努力し腕を磨いているという点ではまったく変わらないと思うのです。ただ、建設職人は職種の種類も

多く、非常に多くの人々が働いています。そういう面では、珍しい職業でなく、貴重な感覚には乏しいのが実感です。また、大勢の中には、腕を磨くことをせずに、ただ食えたらよいという人もかなりの人数いることも事実です。

建設職人のイメージは、一般の方から見れば、勉強ができないから、ビジネスセンスがないから、肉体を使って働いているというイメージが多いのでしょうか。

もしそうであれば、私達はそのイメージを換えねばなりません。それはどうするかと言えば、やっぱり腕を磨く、ことに尽きると思います。建設業の世界では、腕がそこそこなら一人前の賃金を得ることができません。名人・達人の領域に入っても、やっぱり一人は一人です。

では、だからと言って腕を磨くことをやめたのでは、職人としての誇りが泣くことになります。

良くも悪くも関係なく、腕を磨く、この姿勢が努力であり、世間からの評価を得るわけです。そしていつのまにか収入も上がっていると、また、そうならなければいけません。

当社ホームページは <http://www.forbuild.co.jp> ご覧になれます。

## まず整理。要・不要を区別して、いつもすっきり仕事場所！

整理とは、要るものと、要らないものを区別することです。そして要るものを、わかりやすいように配置することを整頓と言います。

乱雑な場所を見てみると、整頓ができていないのはもちろんですが、まず整理ができていないと感じます。

いるものも、いらないものも、場所があるかぎり置いてあるという具合です。たとえ置く場所があっても、要らないものはすぐ処分しなければなりません。すると整頓も物が減りますから、ずいぶん楽になります。

要らないものはすぐに処分です。

## 休業災害ゼロを達成しよう

## 2007年 安全成績

現場災害 H19.1.1-H19.3.10	
休業災害	----- 0
不休災害	----- 0
物損災害	----- 0
その他	----- 0
合計	----- 0
交通災害 H19.1.1-H19.3.10	
人身災害	----- 0
物損災害	----- 0
合計	----- 0